

## ② 児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用

- ・ 場所，回数，時間の視覚化
- ・ 見るだけでなく触る，匂うなど五感の活用
- ・ ICT機器の有効活用
- ・ 操作しやすく，分かりやすい支援ツールの活用



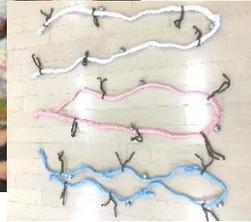
何回すればよいのか分かるように，回数を示す。



日課や予定を理解し，自分で活動に向かうことができるように，実態に合わせた時間割ボードを使用する。



活動への期待感をもてるように，匂いサンプルを匂うなどの五感を刺激するツールを活用する。



友達や教師とのつながりを感じることができるよう、名前呼びの際に、全員で一つのひも鈴を持って揺らしながら行う。



発音の不明瞭な児童生徒でも、自分から発信できるように、タブレット端末を用いて音声を再生しながら係活動を行う。



話し合いを「見える化」し、深まるように、タブレット端末で課題動画を再確認できるようにしたり、付箋に意見を書くようにしたりする。



友達の様子や表情が確認できるように、タブレット端末とモニターを使用し、活動している児童生徒を映し出す。



活動を振り返る際に、即時評価をし、自分の姿を客観的に見ることができるように、タブレット端末で写真や動画を提示する。



自分の力で活動に取り組むことができるように、個に合わせた自助具を使って司会を行う。



給食配膳がしやすいように、  
トレイに食器を置く位置を示す。



立ち位置が明確になる  
よう、足型や足型台を使用する。

	月 日 (月)	月 日 (火)	月 日 (水)	月 日 (木)
<input type="checkbox"/> 声をかけあって掃除ができたか				
<input type="checkbox"/> 協力して掃除ができたか				
<input type="checkbox"/> ゴミは落ちていないか				
<input type="checkbox"/> きれいにふいているか				
<input type="checkbox"/> 窓を閉めたか				



生徒同士で掃除の確認を行う  
ために、チェックシートを用  
いる。